

我孫子市立湖北小学校 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果

① 成果と課題

国語

前回（令和3年度）と比較すると「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域で平均正答率の向上が見られました。「話すこと・聞くこと」では、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることが、よくできていました。「読むこと」においては、文章表現の効果を考えることが、特によくできていました。「話すこと・聞くこと」は全国や県の平均正答率をやや上回っていました。

しかし、「書くこと」については、前回の本校の数値や、全国平均や県平均と比べて正答率が低い傾向があります。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題が、難しかったようです。また、選択式や短答式の問題に比べ、記述式の問題では、無解答率が高くなる傾向が見られ、課題となりました。文章を読み取ることに引き続き力を入れつつ、読み取ったことを元に、自分の考えを述べたり、他者の考えと比較しながら自分の考えを述べたりする活動にも、より力を入れていきたいと思えます。さらに、文を読み取るための漢字学習も欠かせないため、引き続き力を入れていきたいと思えます。

算数

前回（令和3年度）と比較すると、全体的に正答率が下がる傾向が見られました。領域別に見ると、「数と計算」「図形」「変化と関係」領域に関して課題が見られました。例年、本校児童の苦手とする領域と一致するので、今後もこういった本校児童が苦手とする領域への指導の強化を継続していきたいと考えています。また、算数への関心等が、全国や県の数値と比べると低い傾向にあるのも関連がありそうです。児童がより積極的に学習に取り組めるような手立ての必要性を感じています。

解答形式別に見ると、選択式や短答式の問題に比べ、記述式の問題の正答率、無回答率が高く、国語の課題と同じことがわかりました。基礎・基本となる知識は、少しずつ身につけているので、苦手とする分野の学力向上を図っていききたいと思えます。特に、苦手意識をもっている児童への個別支援を充実させたり、本校の取り組みの一つである「計算大会」で基礎計算力を高めたりして、さらなる学習展開の改善に努めていきます。

質問紙

「自己有用感」の分野が高い傾向にあります。「夢や目標をもっているか」という質問については、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」という児童の割合が、全国平均よりも高い結果となりました。また、「自分には、よいところがあると思うか」という質問に対しても、前向きな回答をしている児童が多かったです。

一方で、国語、算数、理科等の「学習に対する興味・関心等」、及び「生活習慣・学習習慣」の分野が、全国平均を下回っていました。

「学習に対する興味・関心等」では、その「教科が好きか」、「授業の内容がよく分かるか」と

いう質問が、全国平均と比べるとやや下回っています。授業内容の改善や、家庭学習への取り組みなど、日々の取り組みを今後も見直し、より質の高い授業や課題を選択していきたいと考えています。

「生活習慣・学習習慣」では、「毎日同じ時刻に就寝・起床しているか」、「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあるか」を聞かれる質問では、全国平均と同じか、それよりも高い結果が見られました。一方で、「毎日朝食を食べているか」、「学校の授業時間以外にどれくらいの時間勉強をしているか」という質問では、全国平均を下回りました。学校以外での学習時間では、本校児童は「1～2時間」と答えた児童が最も多く、全国では、「2～3時間」と答えた児童が最も多かったです。また、「1日あたりのゲーム等の利用時間」を聞く質問では、昨年度に続き、かなり多くの時間を費やしていることがわかりました。本校児童の、生活や学習習慣の成果と課題を参考に、今後の指導に役立てていただきたいと思います。

今後も、望ましい仲間作りについても声をかけ、自らトラブルを解決したり、善し悪しを判断したりできるよう、指導していきます。教員間だけでなく、保護者・地域の皆様とチームとなって指導に当たっていきます。

② 今後の取組について

学力の向上のため、課題に向けて以下のような方策を立て、取り組んでいきます。

○言語活動と読書活動の充実

研究教科に国語科を位置づけ、『「読むこと」において考えることを形成できる児童の育成～感想や考えを書く活動を通して～』をテーマに、言語活動に取り組んでいます。昨年度までの「書く」の活動を生かして、読んだことを元に感想や自分の考えを書く活動を行っています。そのために学んだ知識や自分の体験をふり返り、言葉で表現させることを大切にしています。

また、「読む」習慣を身につけさせるために、読書活動にも力を入れていきます。今年度は、学年の実態に応じて読んだ本を読書カードに記録しています。高学年は、あらすじ、読んで思ったこと、考えたこと、おすすめのポイントなどを、記入しています。学校や家庭でも進んで読書に取り組んでいけるよう声かけを続けていきます。

○学習サポーター・スクールサポーター・少人数指導教員等の活用

1～2年生にはスクールサポーターが入り、算数を中心とした学習の支援を行っています。3～6年生には、学習サポーターや少人数指導教員が入り、こちらも算数を中心とした支援を行っています。学年が上がるにつれ、苦手意識を持ちやすい教科ですので、基礎基本となる知識や計算の力を確実に身につけられるよう、複数の教員で協力しながら学習を進めています。

○教職員研修の充実

例年、湖北小では、教員の授業力向上をねらいとし、初期層教員研修を設定しています。また、全国学力・学習状況調査の問題を分析したり、重点とする指導事項を確認したりして身につけさせるべき力を共通理解して授業を進めていきます。